

「安全文化構築の実践と今後の課題」

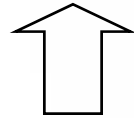


全日本空輸(株)

森本 光雄



ANAグループの安全の確保
経営の基盤・社会への責務



安全優先の企業文化
組織全体の安全意識の向上

確かな仕組み

安全管理体制
の確立・強化

一人ひとりの責任
ある誠実な行動

安全を最重視す
る風土の浸透

ANAグループ安全理念

安全は経営の基盤であり
社会への責務である

私たちはお互いの理解と信頼のもと
確かなしくみで安全を高めていきます

私たちは一人ひとりの責任ある誠実な
行動により安全を追求します



運航リスクマネジメント実施体制

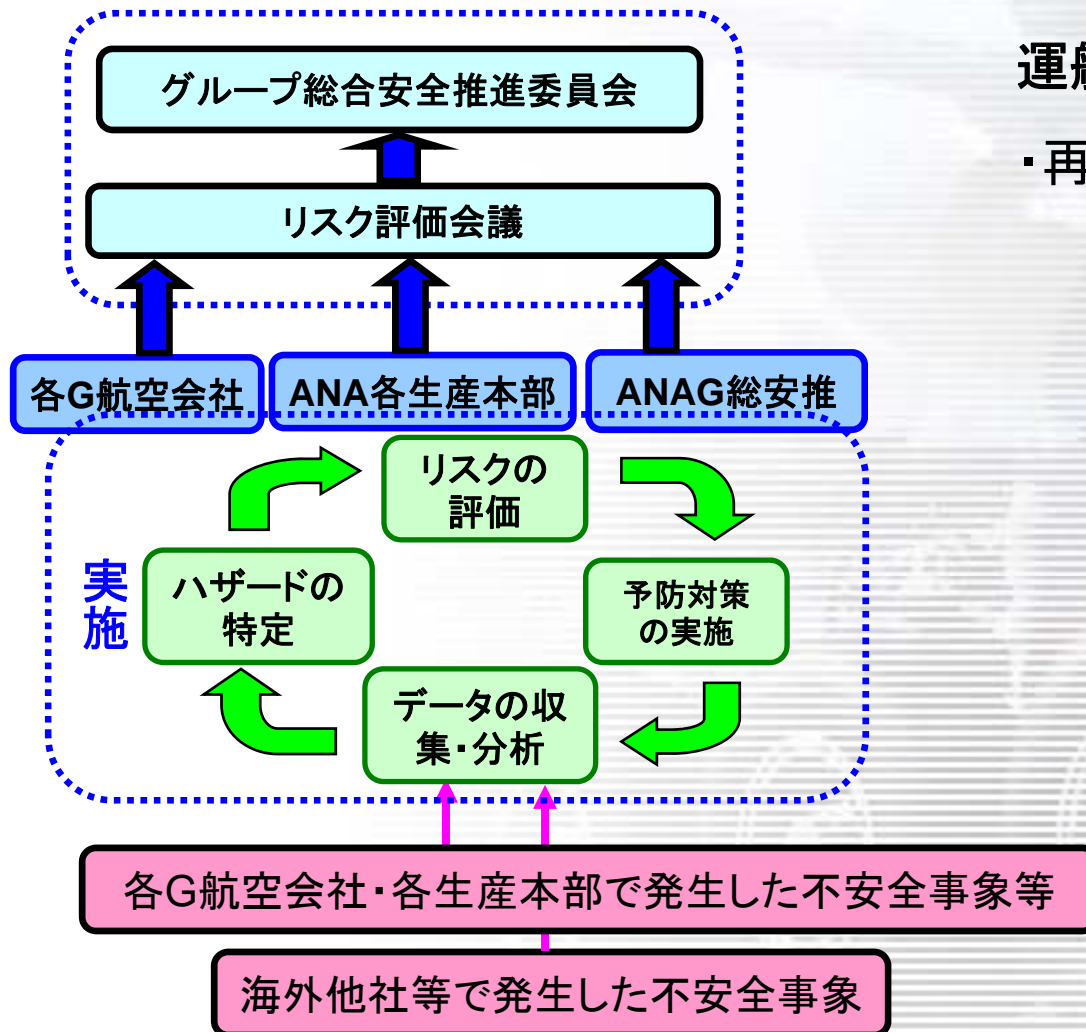
確かな仕組み=SMS

運航リスクマネジメントの実施

・再発防止から未然防止へのシフト

【評価要素】

人的損害
機体損傷
運航阻害
修理費用工数
対外評価



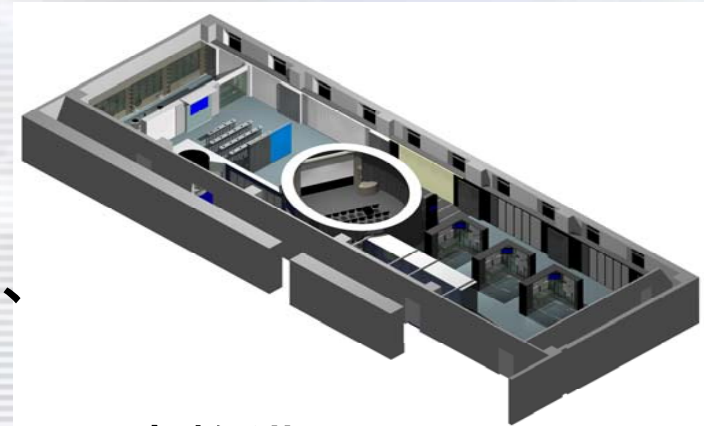
1. ASEC(ANAグループ安全教育センター)を設置し、今年度末までに全グループ社員を受講

2. ヒューマンエラーに関わる安全報告は、不利益な取り扱いをしないことを宣言

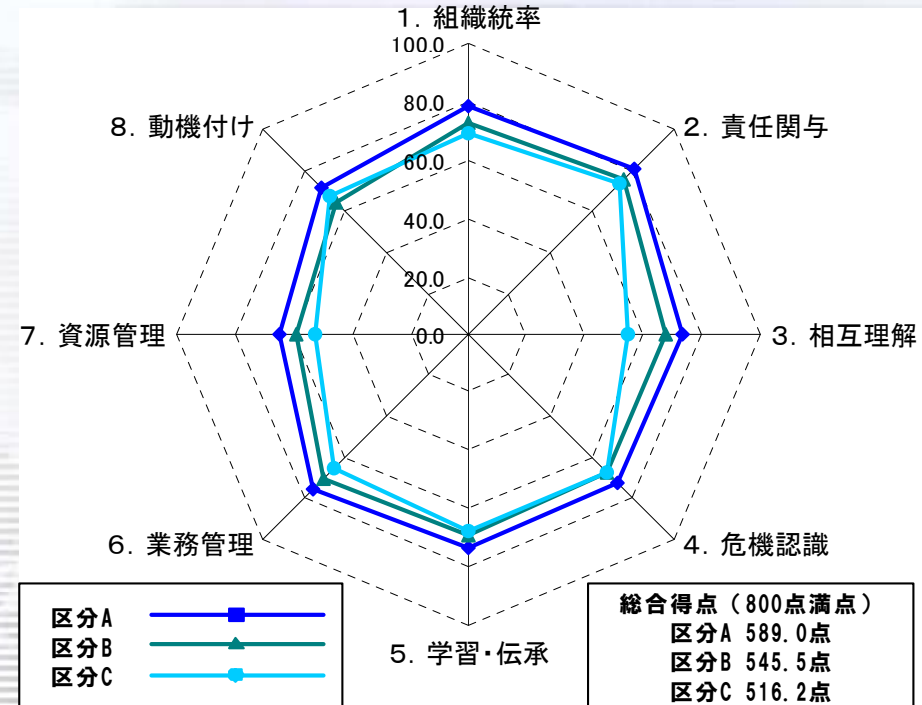
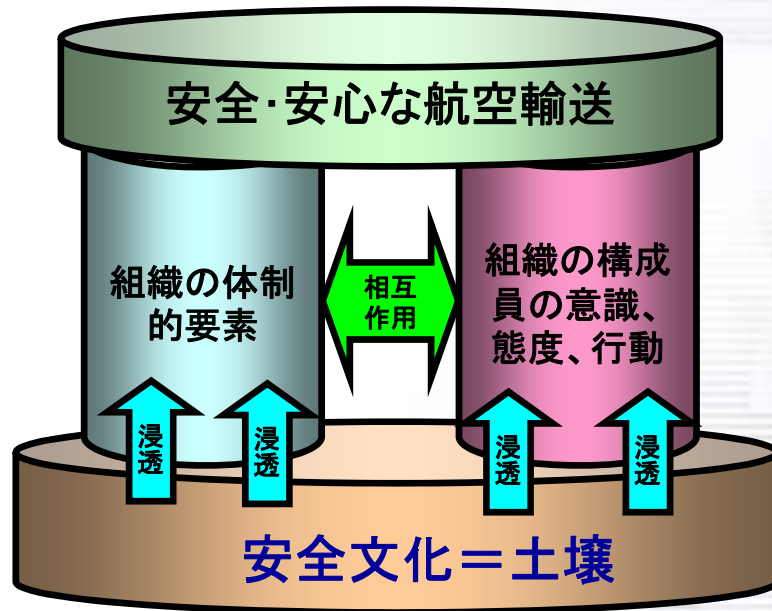
⇒ エラーや不安全事故を報告しやすい環境整備

3. ヒヤリハット報告制度のグループ展開、分析評価手法の向上

⇒ 水平展開から、分析・評価手法を確立し予防安全対策へ



2年に1回安全文化評価を実施（対象：グループ社員約28,000名）



《ANAグループが目指すもの》

安全を何より重要視する風土を組織の隅々にまで浸透させ、各人がそれを日常業務の中で確実に実践できる態勢



1. 運航リスクマネジメントにおける情報ソースの拡大と、分析能力の向上
2. ヒヤリハット報告の更なる活性化
3. 安全文化評価結果の安全施策への反映